

講義名	特別セミナーⅡ		
科目区分	特別研究		
担当教員	丸山 亜希子		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限	授業形態	
	2018年度 経済学部 経済情報学科 情報システムコース/2018年度 経済学部 経済情報学科 経済情報コース /2018年度 経済学部 経済情報学科/ 2018年度 経済学部 経済学科 地域まちづくりコース/2018年度 経済学部 経済学科 現代経済コース/2018年度 経済学部 経済学科/		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>
<p>経済学部では、経済学の思考法を応用して現代社会が直面する様々な問題を分析し、解決策を提案できる人材育成を目指している。このような思考法が求められる業務・業界を目指す学習意欲の高い学生に対して、ディスカッションや問題演習を通じて経済学を学ぶプログラムが、特別セミナーⅠ～Ⅲである。具体的には大学院、銀行・証券会社など金融業界、企業や官公庁の調査・研究部門などをめざす学生に受講を勧める。</p> <p>特別セミナーⅡでは、特別セミナーⅠで学んだミクロ経済学の主要分野の復習等とマクロ経済学の主要分野について、基礎知識の確認と発展的な問題の演習を行う。</p>

<b>到達目標</b>
<p>経済学の基礎知識を習得し、その知識や思考法を使って現実の経済問題について見解を述べることができるようになる。</p>

<b>提出課題</b>
<p>確認テスト（1～2回）を実施する。また、宿題（発表を含む）を複数回課す。</p>

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>
<p>確認テスト・提出課題については、必要に応じて解説を次の授業で行う。</p>

<b>評価の基準</b>
<p>確認テスト 70点 各課題（宿題・発表）などの取り組み 30点 欠席した場合、回数に応じて減点する。</p>

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>
<p>この講義はミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的知識が習得済みであることを前提として進める。よって「経済学入門」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の講義内容の習得が不十分な者は、自習により授業に追いつく必要がある。現実の経済問題も扱うため、世間で話題になっているニュースや出来事を定期的にチェックする必要がある。</p>

<b>教科書</b>
<p>・使用しない。</p>

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<p>プリント資料を授業中に適宜配布する。</p>

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミクロ経済学の基礎知識の復習</li> <li>2. 消費者余剰・生産者余剰</li> <li>3. 余剰と損失</li> <li>4. 市場の失敗、公共財</li> <li>5. 外部経済</li> <li>6. GDP</li> <li>7. 三面等価の原則</li> <li>8. 経済成長、景気循環</li> <li>9. インフレーション、デフレーション</li> <li>10. 財政政策、金融政策</li> <li>11. 日本銀行の金融政策</li> <li>12. 有効需要と45度線分析、乗数理論</li> <li>13. インフレ・ギャップ、デフレ・ギャップ</li> <li>14. IS曲線・LM曲線</li> <li>15. 財政・金融政策の効果</li> </ol>

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
<p>&lt;予習&gt; 授業予定に従い、次回の講義内容の基礎知識を、「経済学入門」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の講義資料などを基に確認する。(60分/回)</p> <p>&lt;復習&gt; 読まれた課題や問題演習に取り組み、間違えた箇所はなぜ間違えたのかを必ず確認する。また、数学の知識が不足している場合には、授業に後れを取らないよう、各自で問題演習などを行い学習する。(60分以上/回)</p>

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>

<b>実務経験の有無及び活用</b>

<b>備考</b>